

## 緊急時の対応

担当 理学療法士 岡野 文男

### I 気道異物除去の手順

#### 1. 「気道異物による窒息」とは

食事中に食べ物が気道に詰まるなどで息ができなくなった状態。

#### 2. 窒息への急変対応 ステップ

##### ステップ1：早期に「窒息」を認識する。

気道閉塞について周囲の認識が早ければ早いほど、良好な転機をたると。異物による気道閉塞が「軽度」であれば、「咳き込む」という症状が出る。ただし、咳き込みが激しすぎて助けを呼べないこともしばしばある。また、咳と咳の間に喘鳴が聞こえることもある。

重篤な場合では、

- ① 発声できない
- ② 弱い咳
- ③ 吸気時の甲高い音
- ④ 音がしない
- ⑤ 増悪する呼吸困難
- ⑥ チアノーゼ

などの現象が観察できる。



図1 チョークサイン

自分に窒息を起きていることを知らせるサインとして、自分の喉を親指と人差し指でつかむチョークサインは万国共通。

##### ステップ2：周囲へ知らせる

ナースコールなどで助けを呼んで、患者さんが窒息していることを周囲に知らせる。

患者さんのそばを離れない。他に協力者がいる場合は、ドクターコールや急変対応システムへの連絡を依頼する。

##### ステップ3：咳を促す(軽度の場合)

激しく咳をすると、しばしば気道に詰まっていたものが吐き出されることがある。

自発的に強い咳をしている場合は、咳や努力呼吸を妨げないことが大事である。

強く咳き込んでいる場合は、そのまま咳を続けてもらう。

#### ステップ4：異物を喀出させる

咳によって異物が喀出できない場合、また重度の気道閉塞の場合、異物を喀出させるための緊急処置、腹部突き上げ法(ハイムリック法)を行う。腹部突き上げ法によって、内臓には大きな外力が加わり、内臓損傷などの合併症を引き起こされることがある。腹部突き上げ法を行ったときは、腹痛やバイタルサインの変化、ショックの徴候の有無を観察する。

図2

### 背部叩打法 (はいぶこうだほう)

- 患者の後ろから、手のひらの基部で、左右の肩甲骨の間あたりを力強く何度も叩きます。

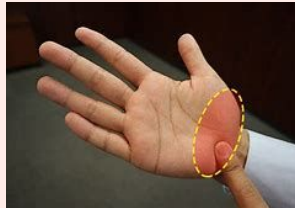


図3

### 腹部突き上げ法

❗ 妊婦や乳児には行えません

1. 患者の後ろに回り、ウエスト付近に手を回します。
2. 一方の手で「へそ」の位置を確認します。
3. もう一方の手で握りこぶしを作って、親指側を、患者の「へそ」の上方で、みぞおちより十分下方に当てます。
4. 「へそ」を確認した手で握りこぶしを握り、すばやく手前上方に向かって圧迫するように突き上げます。
5. 腹部突き上げ法を実施した場合は、腹部の内臓を傷める可能性があるため、救急隊にその旨を伝えるか、すみやかに医師の診察を受けさせてください。



図1～図3は日本医師会救急蘇生法から引用しました。

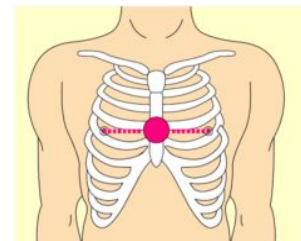
## 2. 対応が困難な場合、反応がない場合 119 番通報

- ・電話で応急処置方法を指導してくれる。
- ・救急車が到着するまでに異物がとれた場合、搬送するかどうかは到着した時の判断。
- ・異物がでるか、意識が無くなるまで背部叩打法・腹部突き上げを行う。
- ・意識が無くなれば心肺蘇生を行う。

## 3. 予防が重要

- ・食事形態の工夫
- ・姿勢の修正
- ・環境の改善
- ・覚醒状態の確認
- ・食物残渣のチェック：口腔ケア

## II 心肺蘇生



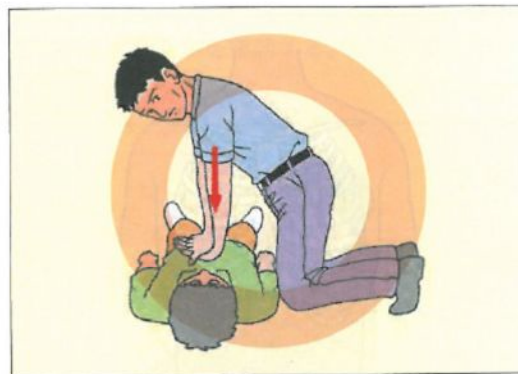
### 1. 胸骨圧迫法

#### 1) 胸骨圧迫の部位

胸の真ん中（乳頭と乳頭を結ぶ線の真ん中）  
に、片方の手の付け根を置く。



この部分(手の付け根)  
で圧迫する



肩から真直ぐ肘を伸ばし、両手を組んで手根で押す。この時、手掌全体で押すと骨を折る。

#### 2) 圧迫の方法

- ①押す強さは胸骨が5 c m程沈むように押し込む。
- ②押すことも大事であるが戻すことも大事。「1 0」押すと「0」に戻す。
- ③押す回数は3 0回、リズムは1分間に100回。
- ④胸骨圧迫は1 0秒以上空けてはいけない。

